

「浜の川湧水」と「かんざらし」

海にほど近く、時折潮の匂いを感じる港町の一角に、忽然と湧き出す真水「浜の川湧水」。100メートル歩けば海辺になるこの場所に、なぜきれいな真水が湧き出るのでしょうか。

眉山や普賢岳の山々に降った雨は、地下に浸み込み、長い時間をかけて地層の中を通過し、ミネラルを豊富に含む湧水となって地表や海底に湧き出します。島原の市街地は、たくさんの水をたたえた山々の麓に位置しているため、水が豊富に湧き出しています。

現在の「浜の川湧水」がある場所は、かつては海で、おそらく当時から海底に湧水が湧き出していたことでしょう。しかし1792(寛政4)年5月21日、眉山が強い地震によって大崩壊を起こし、大量の土砂が海を埋め立てました。それまで海だった場所が陸地となり、海底に湧き出していた水が地上に湧き出し、現在の姿になりました。

海沿いに湧き出す真水は貴重だったことから、水を求めて人が集まり、いつしか港町ができました。1915(大正4)年、「浜の川湧水」に隣接するお店が、1年で最も寒い“大寒”の時期にさらしたもち米の粉で作った白玉団子を、湧水で作った蜜に浸して食べる「かんざらし」を売り出しました。このお店が「銀水」です。「浜の川湧水」を使うからこそ生まれる独特の食感と、甘くて奥深い蜜の味は、眉山の大崩壊がなければ生まれることのなかった、島原の伝統的なジオスイーツです。

また、かんざらしはお店によって蜜の味が違うため、様々な味を楽しめます。おすすめの味を探してみたいかでしょうか。



銀水



かんざらし

第63回 「ジオ空教室」

第12回島原半島ユネスコ世界ジオパーク高校生研究発表大会

県内の高校生が自らのふるさとの魅力を、高校生ならではの視点で探求した成果を発表します。

▶と き

10月7日(土)

9時30分～14時

※終了時間は多少前後する場合があります。

▶ところ

がまだすドーム
セミナー室

▶参加料

無料

図書館へ行こう！

\ 今月の新刊 /



【カモナマイハウス】

重松 清 / 著(中央公論新社)

【内容紹介】

不動産会社で空き家メンテナンス業に携わる孝夫。ある日、妻・美沙の実家が、気鋭の空間リノベーターによる「空き家再生策」の標的になり…。空き家をめぐる、家族の絆の物語。

【作者紹介】重松 清 (しげまつ・きよし)

岡山県生まれ。早稲田大学教育学部卒業。「ビタミンF」で直木賞、「十字架」で吉川英治文学賞、「ゼツメツ少年」で毎日出版文化賞を受賞。

発掘をのぞいてみよう！

「昔の生活の営みを体感 遺構調査」



小原下遺跡 遺構検出状況

発掘調査は、基本は地面を平坦に掘っていきます。土に含まれる粒子の違いや遺物の違いなどを確認しながら掘るので、土の内容物の差から異なる時期・状況に積

もった土であると判断します。人が地面を掘って住居などを造り、使い終わった後には、長い年月の間に土砂などが堆積します。その場所を遺構と呼びます。遺構の土の状況と、まわりの人が地面を掘ったことがない土の状況を比べると、土の色や土に含まれる粒子の違いが出てくるのです。遺構の内容を把握し記録するため、平面や断面の写真撮影や実測を行います。遺構が確認されると、各時代の当時の人々が生活していた状況や生活の規模の一部分などを知る手がかりとなり、昔の生活の営みを体感することにもつながるため、発掘調査の楽しい瞬間です。貴重な遺構が発見されれば、現場説明会などが開催されることがあります。

問合せ先 社会教育課

○島原図書館

(☎ 64-4115)



▶開館時間 9時～18時

※金曜 20時まで

▶休館日

4日(月)・11日(月)・
18日(月)・25日(月)

30日(土)は資料整理日

○有明図書館

(☎ 68-5808)



▶開館時間 9時～18時

▶休館日

5日(火)・12日(火)・
19日(火)・26日(火)
30日(土)は資料整理日